



African Studies Center
Tokyo University of Foreign Studies

東京外国語大学
現代アフリカ地域研究センター
2023（令和5）年度活動報告

目次

1. 概要
2. 活動実績
 - 2.1. 研究活動
 - 2.1.1. 学術ジャーナル刊行
 - 2.2. 教育活動
 - 2.2.1. センター研究者による学部・大学院教育への貢献
 - 2.2.2. 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究事業「アイデアス」
 - 2.2.3. 大学の世界展開力強化事業（アフリカ）への協力
 - 2.3. シンポジウム・セミナー
 - 2.3.1. ASC セミナー
 - 2.3.2. 国際合同カンファレンス
 - 2.3.3. その他、協力イベント
 - 2.4. 人的交流
 - 2.4.1. 研究者招へい
 - 2.4.2. 留学生招致活動
 - 2.5. 社会貢献、ネットワーキング
 - 2.5.1. 日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）
 - 2.5.2. その他
 - 2.6. ウェブサイト、SNS による情報発信
 - 2.6.1. センター公式ウェブサイト
 - 2.6.2. SNS（フェイスブック、ツイッター）
 - 2.6.3. メーリングリスト
3. センターの人員構成
4. 活動記録
 - 4.1. ASC セミナー一覧
 - 4.2. 主催・協力イベント一覧

- 4.3. 主要来訪者一覧
- 5. センター教員・研究員の業績
 - 5.1. 研究活動
 - 5.1.1. 著作（単著・共著・編著）
 - 5.1.2. 論文
 - 5.1.3. エッセイ、その他
 - 5.1.4. 学会・シンポジウム
 - 5.1.5. 一般向け講演
 - 5.1.6. 企画・運営・事務局等
 - 5.2. 教育活動
 - 5.2.1. 本学内における今年度担当授業
 - 5.2.2. 本学以外における非常勤講師活動
 - 5.2.3. 修士・博士論文指導
 - 5.3. 対外活動、社会貢献
 - 5.3.1. 外部機関からの委託業務
 - 5.3.2. マスメディアからの取材・問い合わせへの対応
 - 5.4. 外部資金の獲得
 - 5.4.1. 代表者
 - 5.4.2. 分担者
 - 5.5. 受賞

別添

ASC セミナーチラシ一覧

1. 概要

2022 年度後半からセンターの事務体制が変わり、5 月には新しい教務補佐員が事務局に加わった。また 4 月には新しい特任研究員が着任した。こうした事業実施体制の変化や、2022 年度末に大きな国際会議（ガーナ大学との共同セミナー）を開催したことを考慮して、2023 年度は従来以上に活動の幅を広げることなく、実施体制の基盤整備に努めた。大がかりな国際会議こそなかったものの、それなりに様々な活動が続いた 1 年となった。

アフリカからの研究者招へいは、春学期と秋学期にそれぞれ 1 名ずつ実施し、学部の専門科目を提供してもらった。テーマは「アフリカの開発主義」および「アフリカの文化遺産」に関わる内容で、いずれも 10 名前後の学生が受講した。招へい研究者が自分の専門をわかりやすく解説するもので、受講生にプレゼンテーションをさせるなどインターアクティブな内容であった。学生には刺激になったことと思われる。2 人の招へい研究者は、ASC セミナーでの報告に加えて京都大学や広島大学でも講演するなど、日本の研究者とのネットワーク構築にも大いに寄与した。

「大学の世界展開力強化事業（アフリカ）」の予算的裏付けを得て、多数の留学生をアフリカから招致することができた。トヨタガーナ社の支援をいただいているガーナ大学に加え、プロテスタント人文社会科学大学（PIASS。ルワンダ）、ザンビア大学、プレトリア大学（南アフリカ）、ステレンボッシュ大学（同）から学生を受け入れた。留学生交流会（10 月）やアフリカンウィークス（12 月）などの機会に日本人学部生との交流が進んだことは大変喜ばしい。アフリカからの研究者招へいとアフリカ人留学生の招致は、研究教育活動に非常に効果的であることを改めて感じた。

本学では、学部レベルでの交換留学だけでなく、修士や博士レベルでも Peace and Conflict Studies (PCS) や共同サステナビリティ研究専攻の枠組みを通じて、かなりの数のアフリカ人学生を受け入れている。彼らは上述した様々なイベントにも積極的に関わってくれ、学部生をはじめとした日本人学生との交流を楽しんでいる。加えて、アフリカ人学生に関心を持つ市民団体からのアプローチがあり、立川市の市民団体のイベントにアフリカ人学生が参加した。加えて、招へい研究者のご家族が地元の小学校を訪問したり、5 人の留学生が府中市のくらやみ祭（5 月）に参加したりするなど、市民と交流する機会が増えた。こうした学生、市民との交流は貴重であり、可能な範囲でサポートしたいと考えている。

2017 年度に本センターが設置されてから 7 年が経過し、徐々にではあるが学内外の諸機関との協力、協働が進んできたのは喜ばしい。学内では、アジア・アフリカ言語文化研究所や国際関係研究所と ASC セミナーを共同開催することができた。また、大学の世界展開力強化事業（アフリカ）とは密接に協働しており、アフリカ人研究者の参加を募っての国際合同カンファレンス開催や、日本アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）を通じたプラットフォーム形成事業への取り組みなど、アフリカ研究のハブとしての機能を果たすことができた。また、PIASS との間では 3 年前からオンラインで共同授業（Coil 型授業）を

実施しており、今年度も本学から 10 名が参加した。PIASS の学生と濃密なディスカッションを行う内容で、教育効果の高さを実感した。

こうしたネットワーク構築の取り組みは、しっかりした研究の核があつてこそ持続できる。本センターの場合、ワーキングペーパーがそれにあたる。今年度は、2023 年 3 月にガーナで実施した共同セミナーの成果を中心とする内容となったが、アフリカの研究機関との共同セミナーの成果を査読付き論集にまとめたことは、重要な成果であつたと考えている。

2. 活動実績

2.1. 研究活動

現代アフリカ地域研究センター・センター教員の 2023 年度活動実績は、下記 5.1 に示すとおりである。論文や研究報告はもとより、多数の研究代表プロジェクトを遂行するなど、活発な研究活動を行っている。

2.1.1. 学術ジャーナル刊行

センターの刊行物として、『ASC-TUFS Working Papers Vol.4 (2024)』を発行した。これは、2020 年度より定期刊行物となったワーキングペーパーで、第 4 号の刊行となる。編集委員会は下記のとおりである。第 4 号は 9 本の論文を掲載している。

編集委員長：武内進一

編集委員：大石高典、坂井真紀子、出町一恵、中山裕美、宮本佳和

事務局：柳田繭子

本ワーキングペーパーを J-Stage に掲載したことで、世界各国からアクセス、ダウンロードがなされている。J-Stage の統計によれば、2023 年 4 月～12 月のダウンロード数は、米国からの 510 件を筆頭に、コンゴ民主共和国 197 件、英国 164 件、ドイツ 132 件など、欧米、アフリカ諸国から数多く記録されている。

2.2. 教育活動

2.2.1. センター研究者による学部・大学院教育への貢献

国際社会学部において特任研究員の宮本佳和が以下の授業を行った。

科目：アフリカ地域研究 2/B

題目：民族誌からみるアフリカの政治体系（秋学期 15 コマ）、方式は対面である。

2.2.2. 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究事業「アイデアス」

日本貿易振興機構アジア経済研究所（IDE-JETRO）では、アジア・アフリカ諸国から研修員を招き、国際経済や開発に関する研修事業を提供している。この研修事業が「アイデアス」（IDEAS：IDE Advanced School）で、1990年以来の歴史がある。2018年度から、本センターが大学院研究科とアジア経済研究所の間を取り持つ形で、本学学生をアイデアスに参加させ、大学院総合国際学研究科で単位認定する試みを開始した。秋学期に合わせてセットされたアイデアス事業に、今年度は学部生2名が参加した。

2.2.3. 大学の世界展開力強化事業（アフリカ）への協力

2020年度から始まった「大学の世界展開力強化事業（アフリカ）」によって、アフリカとの学生交流が大きく進展した。2023年度は次のようなイベントに協力した。

a. アフリカ留学説明会

6月8日、大学の世界展開力強化事業（アフリカ）、国際社会学部アフリカ地域専攻、現代アフリカ地域研究センターの共催で、東京外国語大学学生（学部生・大学院生）向けにアフリカ留学説明会を開催した。大学の世界展開力強化事業（アフリカ）のアフリカの協定校5校の紹介や安全対策、アフリカ留学で学べることなどを、アフリカ留学経験者や関係教員から説明した。ザンビア留学から帰国した学生による報告会も同時に開催した。

b. 国際合同コンフェレンス

9月21日、IAfP Joint International Conference 2023 "Pathways to Sustainable Development in Africa and Japan" をオンラインで開催した。下記2.3.2.に詳細を記す。

c. Coil型授業（ルワンダ）

昨年度に続いて、冬学期に武内が授業題目「アフリカの紛争と平和構築」を開講し、PIASS（ルワンダ）の佐々木和之先生と共同で授業を行った。オンラインでZoomを利用し、ブレイクアウトルームを用いて2つの大学の学生を混ぜたグループを作り、議論をさせた。いわゆるCoil型の授業であり、双方の学生から好評を得た。9名の本学学生が参加した。

2.3. シンポジウム・セミナー

2.3.1. ASC セミナー

ASCセミナーは、公式ウェブサイトやSNSに加えて当センターの開設したメーリングリスト（2.6.3.参照）を用いて広報している。2023年度は、下記4.1.に示すとおり、12回のセミナーを開催し、通算で88回の開催に至った。開催方式は、第80回が対面のみ、第87、88回がオンラインのみの開催だったが、それ以外はハイブリッドで開催した。今年度で開催した12回のうち、7回は国際セミナーであった。別添にASCセミナーのチラシを付す。

2.3.2. 国際合同カンファレンス

9月21日の会議では、大学院生と若手アフリカ人研究者11人がオンラインで報告し、9ヶ国19機関から77名が参加した。本会議は大学の世界展開力強化事業（アフリカ）との共同開催であったが、本センターが2021年度以降取り組んでいる日本在住アフリカ人若手研究者とのネットワーク形成を意識したのもでもあった。本会議の組織者の一人キニユア・レイバン・キティンジ氏は、本センター特別研究員で、2022年度に本学で年次総会を開催した日本アフラシア学会(JSAS)の中心メンバーでもある。彼のネットワークを通じて、日本在住アフリカ人若手研究者2名やナイロビ大学所属の若手研究者が報告者として参加したり、名古屋大学や同志社大学に籍を置くアフリカ人研究者がコメンテーターとして参加したことは、大いに喜ばしいことであった。

2.3.3. その他、協力イベント

a. KU-TUFS セミナー

KU-TUFS セミナーは、本センターと京都大学アフリカ地域研究資料センター(CAAS)との共催で開催される企画である。今年度は以下のとおり開催された。

◆第18回セミナー

7月8日 「国際保健とアフリカ地域研究」 講演者：ミルギサ・カバ教授（アディスアベバ大学／京都大学）、ドルカシ・ムワカワンガ（広島大学）、原田英典（京都大学）

◆第19回セミナー

7月5日 “The Industrious and Industrial Revolutions in Africa: What are the Triggers and Enablers?” 講演者：ホームマン・チトンゲ（センター招へい研究者）（急遽開催が決まったため、日付とセミナー番号が第18回と入れ替わった）

◆第20回セミナー

11月21日 “World Heritage and the Politics of Mutuality and Inclusion” 講演者：シャヒード・ヴァウダ（センター招へい研究者）

b. 「みんなで世界を旅しよう！2023地球たんけんたい⑫」

京都で開催される小学生向けワークショップ。本学の太石高典准教授がトリップ3「アフリカの動物と精霊に会いに行こう！（カメルーンのバカ・ピグミー）（2月4日開催）で講師を務めた。本センターは協力団体となった。

c. その他協力イベント

トークライブ「精霊と踊るタイコ——ケニアのドゥルマからのメッセージ」（2023年6月23日。東京外国語大学国際社会学部アフリカ地域専攻、フィールドサイエンスコモンズ(TUFiSCo)、大学の世界展開力強化事業（アフリカ）と共催）

国際シンポジウム 'Global Youth Dynamics and 'Reality' Negotiation in East Africa and South Asia:

Gender, Diversity, Agency' (2023 年 11 月 18-19 日。AA 研, 科研費基盤研究(B) 「不確実性の時代」の南アジアの社会変動ー若者の社会対応を通してー」(研究代表者: 南出和余(神戸女学院大学) 課題番号: 21H03715), TUFiSCo の共催事業に協賛)

アフリカンウィークス(2023 年 12 月 11-22 日。アフリカンウィークス 2023 実行委員会主催) および最終日のイベント“Africa Now!”(2023 年 12 月 22 日) の共催。

2.4. 人的交流

2.4.1. 研究者招へい

2023 年度は 2 名の研究者をアフリカから招へいした。

a. ホームマン・チトンゲ (Horman Chitonge)

所属・役職: ケープタウン大学 アフリカ研究所 教授

招へい期間: 2023 年 3 月 31 日~7 月 31 日

教育活動:

国際社会学部春学期講義「アフリカ開発再考: 工業化の役割」

講演活動:

5 月 24 日第 77 回 ASC セミナーで講演 “The Africa Industrious and Industrial Revolutions: What are the Triggers and Enablers?”

7 月 3 日広島大学で講演 “‘We Owned this Land Before the State was Established’: The State, Traditional Authorities, and the Land Question in Africa”

7 月 5 日京都大学で講演 “The Industrious and Industrial Revolutions in Africa: What are the Triggers and Enablers?”

7 月 17 日南山大学で講演 “The African Economic Development Trajectory: The Role of China, Japan, and Russia”

b. シャヒード・ヴァウダ (Shahid Vauda)

所属・役職: ケープタウン大学アフリカ研究センター・上級研究員

招聘期間: 2023 年 9 月 26 日~2024 年 1 月 17 日

教育活動

国際社会学部秋学期講義「アフリカにおける文化遺産の政治」

講演活動

11 月 8 日第 84 回 ASC セミナーで講演 “Migration, Connectivity, and the Problem of Modern Heritage: Re-Centring Afro-Asia”

11 月 21 日京都大学で講演 “World Heritage and the Politics of Mutuality and Inclusion”

11 月 22 日広島大学で講演 “Transnational Migration and Entrepreneurship Livelihoods, Entrepreneurship and Xenophobia in South Africa”

11 月 27 日国立民族学博物館訪問 (同館池谷和信教授と意見交換)

2.4.2. 留学生招致活動

2020年度から「大学の世界展開力強化事業（アフリカ）」が開始されたことで、コロナ禍の収束に伴って、受入留学生数が大幅に増加した。2023年度は8人（ルワンダ2、ガーナ2、ザンビア2、南アフリカ2）の留学生を長期（1～3セメスター）で受け入れた。これと並行して日本人学生のアフリカ留学も増加し、2023年度の派遣数は11人に達した。留学先のアフリカでできた友人が今度は外大に留学する、あるいは日本で仲良くなった友人が学ぶアフリカの大学へ自分が留学する、という流れができ、学生にも大きな刺激になっている。相互の学生交流は、きわめて教育上の効果が高い。

2021年度からPIASS（ルワンダ）との間で実施しているCoil型の共同授業は、こうした往来をオンライン上でつくり出すものである。アフリカの紛争に関する教科書を読んで、それに基づいてディスカッションをさせているが、ルワンダをはじめとするアフリカ各国の学生との議論は日本人学生に強い問題意識を与えるようである。

恒例の留学生交流会は10月23日に実施した。アフリカ専攻の日本人学生が主導してプログラムを練り上げ、アフリカの留学先とオンラインで繋いで大いに盛り上がった。また、PIASSの佐々木和之先生が交流会に参加して下さった。参加者は総勢86人（対面74名、オンライン12名）で、学外からも17人の参加があった。

受入、派遣留学生については、神代助教が献身的にサポートしている他、月例のオープンランチ（現代アフリカ地域研究センターでの昼食会）を開催するなど、コミュニケーションを密接に取るよう心がけている。

「大学の世界展開力強化事業（アフリカ）」は2024年度をもって終了するため、その後の自走化が懸念材料である。現在、ガーナからの留学生はトヨタガーナ社から航空券支給を受けているが、それ以外の国々についてはそうした協賛は得られていない。そのため、2024年10月来日留学生の帰路分航空運賃を考慮し、矢崎総業株式会社からのご寄付を留学生生活費支援に充てずにリザーブしている状態である。

2.5. 社会貢献、ネットワーキング

本センターは日本におけるアフリカ研究のハブとして、ネットワーク形成と社会貢献に力を入れてきた。そうしたネットワークを通じて、研究と教育の好循環が生み出されると考えている。下記5.1.や5.3.に示すように、センター教員は一般向け講演への協力や学会運営への関与を通じて、様々な形で個別に社会貢献を果たしている。加えて、センターとして組織的にネットワークにも関与してきた。以下、主要な活動を挙げる。

2.5.1. 日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）

2021年度から日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）の議長校を務めている。JAANはアフリカで活動を行う大学間ネットワークであるため、「大学の世界展開力強化

事業（アフリカ）」のプラットフォーム構築事業と深い関連がある。同事業のパートナーである京都大学が、北海道大学とともに JAAN の副議長校であることもあって、JAAN の活動を同事業と組み合わせる形で展開してきた。

2023 年度には、実施校会議（2023 年 7 月 6 日、2024 年 3 月 14 日）、日本アフリカ高度専門人材育成支援委員会・外部評価委員会・日本アフリカ実務組織・大学交流会（2023 年 12 月 6 日）など、プラットフォーム構築事業との関連で大学や実務機関との関係が深まった。

2.5.2. その他

2023 年 5 月 31 日に科学技術振興機構（JST）主催で開催された日本・アフリカ大学交流会会議に出席した。アフリカから 9 大学、日本から 19 大学が参加し、大学間交流への関心の高さを示した。

2023 年 11 月 27 日、招へい研究者のシャヒード・ヴァウダ教授が大阪府吹田市の国立民族学博物館を訪問し、池谷和信教授と意見交換ののち館内を案内いただいた。国立民族学博物館に南アフリカから研究者が訪問するのは初めてとのこと、招へい研究者を通して日本と南アフリカのネットワークを広げることができた。

2024 年 2 月 13 日、セネガルのシェイク・アンタ・ディオップ大学（UCAD）学長が来日する機会を捉え、懇談会を開催した。懇談会には上智大学、国際基督教大学、創価大学、京都大学、あしなが育英会から出席があった。

2024 年 2 月 29 日、立川市国際理解講座にて、武内センター長が「コンゴ民主共和国—継続する紛争の現状と未来」と題して講演した。立川市での講演は 2018 年以来継続している。

センターとして、地元自治体との協力には積極的に取り組みたいと考えている。立川市の市民団体がアフリカ人留学生との交流を深めたり、以前クラウドファンディングに協力してくれた府中市民がアフリカ人留学生を「くらやみ祭」に招待してくれたり、留学生を介した草の根のネットワークが少しずつ広がっている。

2.6. ウェブサイト、SNS による情報発信

2.6.1. センター公式ウェブサイト

2017 年 7 月の公式ウェブサイトの設置以降、ホームページは着実に閲覧されてきた。ホームページは、一昨年度末に導線、コンテンツ、レイアウトを大幅に更新した。今年度は 154 本を超える記事を更新した（内訳は表 1）。

表 1. 公式ウェブサイト記事更新数内訳

2023 年度	センターHP (全て記事公開日を基準にカウント)										
	お知らせ・イベント			研究活動				今日の アフリカ	留学生招致		
公開月	お知ら せ	ASC セミ ナー	その他 のイベント	研究 成果	研究プ ロジェ クト	招へい 研究者	センタ ー刊行 物		留学生 紹介	活動記 録	留学生 招致の 取組
'23.4月	2		2	2		1	—	6	—	—	—
5月		1	2				—	5	—	1	—
6月	1	1	2			3	—	5	—	1	—
7月	1	1	2	1			—	6	—	—	—
8月	1					1	—	5	—	—	—
9月	1		1	3		1	—	5	8	8	—
10月	3	3	2			2	—	5	—	—	—
11月	1	3	3	2		3	—	8		—	—
12月	1	1	1	1			—	6	—	—	—
'24.1月	1	1				1	—	4	—	—	—
2月		1	2				—	5	—	—	—
3月	1			1	10		—	2	—	—	—
小計	13	12	17	10	10	12	0	62	8	10	0
合計 記事数	154										

* 3月の集計データは2023年3月11日までのもの。

2.6.2. SNS (フェイスブック、X:旧ツイッター)

センターに関する最新情報については Facebook 及び Twitter といった SNS でも発信している。「今日のアフリカ」やセンターのセミナーやイベントなどを頻繁に発信することにより、各フォロワー数は2024年3月11日時点で Facebook で1176フォロワー、Xで2092フォロワーとなり、昨年度同時期から Facebook で80、Xで492程増加している。こうした

地道な増加により、センターのイベントなどをより広く周知することが可能になっている。
今年度の投稿記事数などは、表2に示すとおりである。

表2 SNS 更新数内訳

2023年 度	X (旧 Twitter)				Facebook			
	記事投稿 数	新規 フォロ ー	リツイート 獲得数	いいね! 獲得数	記事投稿 数	ページの 表示数	ページへの アクセス	ページへの いいね!
‘23.4月	13	60	97	166	13	1292	272	95
5月	10	12	62	213	10	4902	195	49
6月	11	36	40	126	12	1267	115	54
7月	7	23	56	82	9	3063	241	70
8月	11	62	134	259	14	1533	273	110
9月	9	93	182	384	9	1718	195	51
10月	17	30	71	157	19	2164	326	76
11月	15	—	90	173	14	2055	219	50
12月	16	—	57	124	12	1661	186	57
‘24.1月	6	—	37	84	10	559	229	22
2月	5	—	70	119	5	1279	162	61
3月	4	—	11	15	3	451	55	34
合計	125	316	907	1902	130	21944	2468	729

* 3月の集計データは2023年3月11日までのもの。

*XとFacebookは基本的に同記事を投稿しているが、Facebookはセミナーをイベントとして作成したり、両者のインサイトページのカウントの方法が違ったりすることにより記事投稿数に差異が出ている。

2.6.3. メーリングリスト

2024年3月15日現在、日本人向けメーリングリスト登録者数は924名である。また、2020年末に作成を開始した外国人向けメーリングリストの登録者数は173名に達した。

3. センターの人員構成

センター長	武内進一
センター教員（兼担）	石川博樹、大石高典、坂井真紀子、椎野若菜、品川大輔、出町一恵、中川裕、中山俊秀、中山裕美、箕浦信勝、村津蘭
特任研究員	宮本佳和
特別研究員	アルタンジョラー、Emmanuel Vincent Nelson Kallon、Kinyua, Laban Kithinji、大石晃史、林剛平、溝口大助
事務局	伊藤奈緒、柳田繭子

4. 活動記録

4.1. ASC セミナー一覧

回	開催日	講師	題目	備考
77	5月24日	講演者：ホーマン・チトンゲ氏（東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・客員教授、ケープタウン大学アフリカ研究所・教授）	The Africa Industrious and Industrial Revolutions: What are the Triggers and Enablers?	ハイブリッド開催 （対面17名、オンライン40名） 日本アフリカ学会関東支部との共催
78	6月21日	講演者：Naaborle Sackeyfio氏（Associate Professor, Department of Global and Intercultural Studies, Miami University of Ohio）	Gendering energy, representation and the political ecology of electric energy transitions in Ghana	ハイブリッド開催 （対面11名、オンライン17名） 日本アフリカ学会関東支部との共催
79	7月24日	講演者：宮本佳和氏（現代アフリカ地域研究センター/特任研究員）	「祖先の土地」返還論争を再解釈するーナミビアのヘレロの事例から	ハイブリッド開催 （対面5名、オンライン27名） 日本アフリカ学会関東支部との共催
80	10月2日	演奏・講演者：親指ピアニスト・サカキマンゴー氏	親指ピアノの時空へ	対面形式（約90人） 日本アフリカ学会関東支部との共催
81	10月17日	講演者：Heike Drotbohm氏（ドイツ・マインツ大学人類学部長）	Care and Reunification in a Cape Verdean Family: changing Articulations of Family and Legal Ties	ハイブリッド開催 （対面6名、オンライン5名） TUFS フィールドサイエンスコモンズ（TUFiSCo）、日本アフリカ学会関東支部との共催
82	10月13日	講演者：Antoine Socpa氏(キャノン財団 2023 フェロー / 京都大学、ヤウン	Migration, land struggles, ethnicity and the quest for citizenship in urban and rural Cameroon	ハイブリッド開催 （対面15名、オンラインで20名）

回	開催日	講師	題目	備考
		デ第 1 大学芸術・文学・社会科学部 人類学科 / 応用社会科学のための研究・トレーニングラボ)		日本アフリカ学会関東支部との共催
83	11月1日	講演者：村津 蘭 氏（東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 / 助教） コメンテーター：浜本 満 氏（九州大 学大学院人間環境学研究院 / 名誉教 授） 西井 涼子 氏（東京外国語大学 アジ ア・アフリカ言語文化研究所 / 教 授）	合評会：村津蘭 著『ギニア湾の悪魔ーキ リスト教系新宗教をめぐる情動と憑依の 民族誌』（世界思想社、2023年）	ハイブリッド開催 （対面 20 名、オンライン 50 名） 日本アフリカ学会関東支部との共催
84	11月8日	講演者：シャヒード ヴァウダ 氏（ケ ープタウン大学アフリカ研究センタ ー・上級研究員、東京外国語大学現 代アフリカ地域研究センター・客員 教授）	Migration, Connectivity, and the Problem of Modern Heritage: Re-Centring Afro-Asia.	ハイブリッド開催 （対面 24 名、オンライン 20 名） 日本アフリカ学会関東支部との共催
85	11月21日	講演者：Constance Mudondo 氏 (Makerere University)	Doing research in transboundary conflict contexts: Reflections from the field in Uganda	ハイブリッド開催 （10 名、オンライン 20 名） TUFs フィールドサイエンスコモンズ (TUFiSCo)との共催
86	12月13日	講演者：ハッサン ヨシンボム 氏（神 戸大学大学院国際文化学研究所客員	Navigating Uncertainty: The Interplay of 'Magical Football' and 'Football Magic' in Cameroonian Football	ハイブリッド開催 （対面 22 名、オンライン 24 名）

回	開催日	講師	題目	備考
		准教授、Langaa RPCIG リサーチマネージャー・セミナーコーディネーター)		日本アフリカ学会関東支部、神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート (Promis) との共催
87	2024年1月16日	発表者：小林周氏（日本エネルギー経済研究所 中東研究センター 主任研究員） 司会：中山裕美氏（東京外国語大学大学院総合国際学研究院 准教授） コメンテーター：武内進一氏（東京外国語大学 教授／現代アフリカ地域研究センター センター長）	「ボーダレスな危機連鎖時代の社会とガバナンス」研究会・『リビア紛争と地域・国際情勢の連動：不安定化の要因と今後の展望』	オンライン開催（40名） 国際関係研究所との共催
88	2024年2月1日	発表者：松野明久氏（大阪大学 名誉教授） コメンテーター：武内進一氏（東京外国語大学 教授／現代アフリカ地域研究センター センター長）	「ボーダレスな危機連鎖時代の社会とガバナンス」研究会・『西サハラの自決権：難民キャンプからの民族解放闘争』	オンライン開催（50名） 国際関係研究所との共催

4.2.その他の主催・協力イベント一覧

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
共催	4月27日	緊急講演会「スーダンの軍事衝突—現状、背景、見通し」	主催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所のイスラーム信託学科研総括班 共催：科研費学術変革領域研究

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
			(A)「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造」総括班（研究代表者：黒木英充（東京外国語大学 AA 研）、課題番号：20H05823）；「紛争影響地域における信頼・平和構築」（研究代表者：石井正子（立教大学）課題番号：20H05829）；東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
後援	6月8日	【TUFS 学生限定】アフリカ留学説明会&ザンビア留学報告会	共催：現代アフリカ地域研究センターと大学の世界展開力強化事業（アフリカ）
共催	6月23日	トークイベント：精霊と踊るタイコ	共催：東京外国語大学国際社会学部アフリカ地域専攻、現代アフリカ地域研究センター、フィールドサイエンスコモンズ（TUFiSCo）、大学の世界展開力強化事業（アフリカ） 協力：外語会 NEXT
共催	7月5日	第19回 KUAS-TUFS セミナー “The Industrious and Industrial Revolutions in Africa: What are the Triggers and	共催：京都大学アフリカ地域研究資料センター、東京外国語大学現

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
		Enablers?" 講演者：ホーマン・チトンゲ（センター招へい研究者）（急遽開催が決まったため、日付とセミナー番号が第 18 回と入れ替わった）	代アフリカ地域研究センター
共催	7月8日	第5回 CEECS/第110回 KUAS/第18回 KUAS-TUFS/第13回 IAfP/ 第8回「生涯学」セミナー 2023年度 サマーセミナー：国際保健とアフリカ地域研究	共催：日本助産学会若手研究者活躍推進委員会（CEECS）、京都大学アフリカ地域研究資料センター、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、大学の世界展開力強化事業、学術変革領域 A 「生涯学の創出—超高齢社会における発達・加齢観の刷新」
主催	9月21日	"IAfP Joint International Conference 2023: Pathways to Sustainable Development in Africa and Japan"	共催：現代アフリカ地域研究センターと大学の世界展開力強化事業（アフリカ）
協力	10月23日	アフリカ留学生交流会 2023	共催：現代アフリカ地域研究センターと大学の世界展開力強化事業（アフリカ）
協賛	11月18日・19日	国際シンポジウム 'Global Youth Dynamics and 'Reality' Negotiation in East Africa and South Asia: Gender, Diversity, Agency'	Research Institute of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies JSPS project "The Era of Uncertainty and Social Transformation in South Asia: through the Young People's Strategies" 協賛：現代アフリカ地域研究センター 東京外国語大学
共催	11月21日	第20回 KU-TUFS & 第115回 KUASS 『World Heritage and the Politics of Mutuality』	共催：京都大学アフリカ地域研究

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
		and Inclusion』	資料センター、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
共催	12月22日	「Transnational Migration and Entrepreneurship Livelihoods, Entrepreneurship and Xenophobia in South Africa」	共催：広島大学 大学院 大学院人間社会科学研究科、現代アフリカ地域研究センター
共催	12月22日	アフリカネットワーキングイベント「Africa! Now!」	主催：アフリカンウィークス2023 実行委員会、With Africa & African Students 共催：現代アフリカ地域研究センター、東京外国語大学「大学の世界展開力強化事業（アフリカ）」
協力	2月4日	小学生向けワークショップ「みんなで世界を旅しよう！2023 地球たんけんたい⑫」	主催：マナラボ 環境と平和の学びデザイン 日本学術振興会科学研究費基盤研究（C）「フィールドの共創的な再現：差異と類似をめぐる教育実践から構築する公共的な人類学（代表：飯塚宜子）、日本学術振興会科学研究費若手研究「学校教育の知識観がアフリカ狩猟採集社会にもたらす影響に」に関する言語社会化研究」（代表：園田浩司） 共催：東京外国語大学フィールドサイエンスコモンズ TUFiSCo、日

協力形態	開催日	イベント名	関係機関
			<p>本学術振興会学術知共創プログラム「身体性を通じた社会的分断の超克と多様性の実現」（代表：床呂郁哉）</p> <p>後援：京都市教育委員会、NPO 法人平和環境もやいネット</p> <p>協力：京都大学東南アジア地域研究研究所、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、地域研究コンソーシアム</p>

4.3. 主要来訪者

日付	訪問者
4月6日	瀧本康平、生田卓也、他（JICA 安全管理部）
5月25日	正木皓二郎（朝日小学生新聞）
6月2日	西野雅之（三栄源エフ・エフ・アイ）
6月29日	黒木大輔（元在マリ日本国大使館特命全権大使）
6月30日	今泉奏（朝日新聞）
6月30日	加藤隆一（在ギニア日本国大使館特命全権大使）、加藤正明（在ブルキナファソ日本国大使館特命全権大使）、高木勇歩（外務省アフリカ部アフリカ第一課）
7月10日	Lloyd Adu Amoah（ガーナ大学アジア研究所所長）
7月11日	Joed Elich（Brill 編集者）

7月20日	杉山弘樹在コートジボワール日本国大使館参事官(説明会に学生23名が参加)
7月21日	間瀬博幸外務省アフリカ第一課長(ビデオ対話)
7月27日	江上雅彦国際協力機構アフリカ部アフリカ第一課長、内田歩、関普鮮(同課)
8月3日	横関由美子(JICAセネガル事務所)(ビデオ対話)
8月7日	成清 洸太(NHK大阪放送局報道番組ディレクター)
8月17日	森千春(読売新聞編集委員室)、鈴木竜三(編集委員)
9月7日	新屋(朝日新聞)
10月13日	野口修二(在ガボン日本国大使館特命全権大使)、門愛子(アフリカ一課)
11月30日	服部正法(毎日新聞)
12月19日	Ahmedou Ould Abdallah(サヘル・サハラ・セキュリティ戦略センター(4S)所長)
12月26日	西野修一(外務省アフリカ第一課長)、門愛子(アフリカ第一課)
2月9日	黒木大輔(元在マリ日本国大使館特命全権大使)
2月13日	Ahmadou Aly Mbaye(セネガル・シェイク・アント・ディオップ大学(UCAD)学長)
2月19日	豊秀一(朝日新聞編集委員)

5. センター教員・研究員の業績

5.1. 研究活動

5.1.1. 著作（単著・共著・編著）

Daisuke Shinagawa (2024, in press) *Copperbelt Bemba: A sketch grammar*. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. (言語研修テキスト)

Daisuke Shinagawa, Ryota Ueno, Tsubasa Takahashi, Toshio Tôyama, Sakura Ishikawa, and Ayaka Yamamoto (2024, in press) *Copperbelt Bemba: A collection of phonetic materials on nominal tone patterns*. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. (言語研修テキスト)

5.1.2. 論文

石川博樹, 太田淳, 太田信宏, 小笠原弘幸, 宮宅潔, 四日市康博編, 吉澤誠一郎監修、鄭天恩訳 (2023) 『論点・東洋史学：一本掌握！横跨欧亚非大陸の歴史学關鍵課題』臺灣商務印書館. (2022年に昭和堂から出版された編著『論点・東洋史学』の中国語訳)

Kazuyo Hanai, Koji Oishi, and Maki Kozakai (2023) “Why a ‘Closed-Pipe Supply Chain’ Cannot Stop Violence in the DRC” *SSRN*.

大石高典 (2023) 「外来種と地域漁業——中部アフリカのナイルアロワナの事例」 『ビオストーリー』 40: 98-102.

大石高典, ベルナル・アリスティド・ビトゥガ (2023) 「コンゴ盆地に生きる狩猟採集民の喫煙文化の多様性についての比較研究」 『2022年度公益財団法人たばこ総合研究センター助成研究報告』 pp. 234-252.

坂井真紀子 (2024, 印刷中) 「東アフリカの長距離交易と地域経済の変容」 杉山祐子 (編) 『農村の人びととお金のかかわり：アフリカと日本にみる「共」の再編』弘前大学学術出版会.

坂井真紀子 (2024, 印刷中) 「カメルーン西部州のアジュール空間としての定期市」 杉山祐子 (編) 『農村の人びととお金のかかわり：アフリカと日本にみる「共」の再編』弘前大学学術出版会.

Daisuke Shinagawa and Lutz Marten (2023) “A micro-parametric survey on typological covariation related to focus marking strategies, based on the Bantu Morphosyntactic Variation database”, *Linguistique et langues africaines* 9(1).

Daisuke Shinagawa (2024, in press) “A sketch of we- in Uru (Bantu E622D)” 『スワヒリ&アフリカ研究 第35号』大阪大学外国語学部スワヒリ語・アフリカ地域文化研究室編.

Daisuke Shinagawa and Junko Komori (2023) “System of 'sibling' terms in Niger-Congo”, In Chitsuko Fukushima, Satoko Shirai, Mika Fukazawa, Hiroyuki Suzuki and Mitsuaki Endo (eds.), *Linguistic Atlas of Asia and Africa III*. pp. 55–57.

Daisuke Shinagawa and Junko Komori (2023) “Alignment in Niger-Congo”, In Chitsuko Fukushima, Satoko Shirai, Mika Fukazawa, Hiroyuki Suzuki and Mitsuaki Endo (eds.), *Linguistic Atlas of Asia and Africa III*. pp. 136–138.

井上直美, 武内進一 (2023) 「アフリカ農村部における企業と人権—シエラレオネの事例から」 『日本経営倫理学会誌』 30: 23-37.

武内進一 (2023)「急成長のアフリカが求める国際関係—平和への鍵握るグローバル・サウス」『中央公論』137(9): 58-65.

Shinichi Takeuchi (2023) “The International Order That Africa Wants”, *Discuss Japan* 78. (同上英語版)

武内進一 (2023)「非洲所寻求的国际秩序」『日本外交政策论坛』54 (同上中国語版)

武内進一 (2023)「所得格差の是正が目標となるまで」井野瀬久美恵 (責任編集)『つなぐ世界史 3 近現代史/SDGsの歴史的な脈を探る』清水書院、pp. 201-205.

Kazue Demachi (2023) “Dollarization in Other Emerging Economies and Developing Countries”, In *Cambodian Dollarization*, Hidenobu Okuda and Serey Chea (eds.), pp. 182-201, London: Routledge.

Fumiharu Mieno and Kazue Demachi (2023) “Macroeconomic Imbalance, External Debt, and Financial System in Laos”, *JCER Working Paper, submitted to The AEPR Conference on “Macroeconomic Challenges in ASEAN,” in Tokyo on September 30.*

中山俊秀 (2023)「適応することば：内的要因による言語変化」菊澤律子, 吉岡乾 (編)『しゃべるヒト：ことばの不思議を科学する』文理閣. pp.240-247.

Horiuchi, Fumino and Toshihide Nakayama (2023) “Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese social media texts”, *Journal of Japanese Linguistics* 39(1): 145-163.

長谷川晶一, 三武裕玄, 亀岡嵩幸, 中島遼, 中山俊秀, 稲見昌彦 (2023)「VRを活用するメタバースコミュニティの理解にむけて」第28回日本バーチャルリアリティ学会大会論文集.

5.1.3. エッセイ、その他

石川博樹 (2023)『黒人の歴史：30万年の物語』ネマータ・ブライデン著, 沢田博訳, 河出書房新社. (アフリカ史関連項目監訳)

大石高典 (2023)「フィールドワークは終わらない」『ガーナ流 家族のつくり方—世話する・される者たちの生活誌』小佐野アコシヤ有紀著, 東京外国語大学出版会. pp. 234-253.

大石高典 (2023)「『【増補改訂版】コンゴ共和国 マルミミゾウとホテルの行き交う森から』西原智昭著」『おすすめアフリカ本』, 特定非営利活動法人アフリック・アフリカ.

大石高典 (2023)「Gaurav Desai and Adeline Masquelier (eds.)『Critical terms for the Study of Africa』, University of Chicago Press、2018年12月刊行」『おすすめアフリカ本』, 特定非営利活動法人アフリック・アフリカ

大石高典 (2024)「学生の経験したトラブル事例とそこからの教訓」神代ちひろ (編)『学部生の安全なアフリカ留学に向けて』, 東京外国語大学「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」. pp. 8-19.

大石高典 (2024)「学生の経験した体調不良の傾向と対策」神代ちひろ (編)『学部生の安全なアフリカ留学に向けて』, 東京外国語大学「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」, pp. 20-33.

坂井真紀子 (2024)*Vive les marchés périodiques - chez les Bamiléké dans la région d'ouest,*

Cameroun. (科研費基盤 C 報告写真集)

- 椎野若菜 (2023) 「ライフスタイルとしてのシングル」 日本家族社会学会 (編) 『家族社会学事典』, 丸善出版, pp. 618-619.
- 椎野若菜 (2024) 「性的なトラブル回避について」 神代ちひろ (編) 『学部生の安全なアフリカ留学に向けて』, 東京外国語大学「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」, pp.34-41.
- 武内進一 (2023) 「社会運動の世界的連関と地域性」 『クアドランテ』 25: 29-30.
- 武内進一 (2023) 「ジャン=フランソワ・バイヤール『アフリカにおける国家』 晃洋書房、2023年、398頁」 『図書新聞』 第 3615 号.
- 武内進一 (2023) 「アフリカのジェンダー研究と東京外国語大学」 『ピエリア』 第 15 号.
- 中山裕美 (2024) 「Q51 日本とアフリカとの関係について教えてください」 『Q&A でよむ日本外交入門』, 吉川弘文館, pp. 178-179.
- 中山裕美 (2024) 「Q59 日本は毎年どれくらいの数の難民を受け入れていますか」 『Q&A でよむ日本外交入門』, 吉川弘文館, pp. 208-211.
- 宮本佳和 (2023) 「現代アフリカにおける医療と統治をめぐって—南部アフリカ牧畜民研究の視点からのコメント—」, 井田暁子, 梅屋潔 (編) 『アフリカにおける健康と社会—人間らしい医療を求めて』, 風響社, pp.181-187.
- 宮本佳和 (2023) 「ナミビアのヒンバの儀礼とビーズ—ヘレロとの関係から (特集「ビーズ大陸アフリカ」)」 『季刊民族学』 185: 44-49.
- 宮本佳和 (2023) 「ナミビア大統領、フィンランド元大統領の国葬に参列」 『今日のアフリカ』, 東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
- 宮本佳和 (2023) 「南部アフリカ (牧畜)」 川田牧人, 松田素二 (編) 『世界の冠婚葬祭事典』, 丸善出版. pp. 226-229.
- 宮本佳和 (2023) 「ナミビア大統領の死と平穏な権力移行」 『今日のアフリカ』, 東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター

5.1.4. 学会・シンポジウム

- 石川博樹 「『メネン皇后学校料理書』とエチオピア北部における副食の歴史的变化」, 日本ナイル・エチオピア学会第 32 回学術大会, 大阪公立大学/オンライン (2023 年 4 月 26 日)
- 石川博樹 「エチオピアにおけるインジェラの調理技法確立時期」, 日本アフリカ学会第 60 回学術大会, 幕張国際研修センター (2023 年 5 月 13 日)
- Hiroki Ishikawa “Birth of Injera in Ethiopia”, International Workshop “Food as a Window to the Past: Africa, Asia and the Pacific”, Research Institute for Languages and Cultures of Asian and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 25 September 2023.
- 石川博樹 「19 世紀半ばのエチオピアにおける「インジェラ」」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「アフリカ食文化研究の新展開: 変貌しつつあるその実像に迫る」 2023 年度第 3 回研究会, 京都大学稲盛財団記念館

(2024年3月24日)

Koji Oishi and K. Sakuwa "Structural balance of alliance and rivalry networks in international relations" AROB-ISBC-SWARM 2024, ビーコンプラザ別府 (2024年1月24~26日)

大石高典「写真・映像資料の『共有』と活用：アフリカの長期継続調査地における経験から」、コモンズカフェ「フィールド映像のアーカイブとその活用：放送大学 HUMAN シリーズのアーカイブ経験を中心に」(TUFS フィールドサイエンスコモンズ (TUFiSCo))、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所/オンライン (2023年11月30日)

大石高典「シンポジウム 3「トウヨウミツバチをめぐる文化誌：セイヨウミツバチ・トウヨウミツバチ・ヒトとの『マルチスピーシーズ』な関係」へのコメント」、ミツバチサミット 2023, ミツバチサミット実行委員会, つくば国際会議場/オンライン (2023年11月19日)

大石高典「狩猟採集社会の農耕化・定住化と犬——現代の狩猟採集民研究の視点から」令和5年度加曽利貝塚博物館特別研究講座「縄文犬研究の最前線, 千葉市立加曽利貝塚博物館 (2023年10月21日)

Takanori Oishi "Comments to the session: EARLY CHILDHOOD CARE, FAMILY, AND GENDER", IAfP Joint International Conference 2023: Pathways to Sustainable Development in Africa and Japan, African Studies Center-TUFS and the "Inter-University Exchange Project(Africa)-TUFS(IAfP)", online(21 September, 2023)

大石高典「アフリカの森を媒介にひとりひとりに内在する「森の世界」を発見する」、研究会「フィールドの共創的な再現」科学研究費補助金プロジェクト「フィールドの共創的な再現：差異と類似をめぐる教育実践から構築する公共的な人類学」(代表：飯塚宜子)、京都大学稲盛財団記念館 (2023年4月14日)

大石高典「顔身体イメージと環境の相互作用：アフリカの熱帯林・サバンナでの描画実験とナラティブから探る」、盛和スカラーズソサエティ (3S) 交流会 (稲盛財団), ザ・プリンス京都宝ヶ池 (2023年4月15日)

大石高典「コンゴ盆地に生きる狩猟採集民の喫煙文化の多様性についての比較研究」、TASC助成研究報告会, 公益財団法人たばこ総合研究センター, オンライン (2023年9月4日)

Wakana Shiino "Single women and the future of African patrilineal societies, European Conference on African Studies (ECAS)", University of Cologne (31 May, 2023)

Wakana Shiino "Women going to the Middle East: the recent condition of 'housegirls' in Kenya", ILCAA Joint Research Project Global Youth Dynamics and 'reality' negotiation in Eastern Africa (jrp000272), International presentation, Research Institute for Languages and Cultures of Asian and Africa, Tokyo University of Foreign Studies (18 June, 2023)

Wakana Shiino "How do female humanities students decide on their course and envision their future? —Women, Education, and Work in Contemporary Uganda", JSPS Bi-Lateral Research Project (Uganda-Japan) Meeting, Faculty of Social Sciences, Makerere University (18 August, 2023)

Wakana Shiino "Female Youth's Choice for Their Survival: Being a Housegirl in Kenya or the Middle East", International Symposium 'Global Youth Dynamics and 'Reality' Negotiation in East Africa and South Asia: Gender, Diversity, Agency', Research Institute for Languages and Cultures of Asian and Africa, Tokyo University of Foreign Studies and JSPS (19 November,

- 2023)
- 椎野若菜「コメント, 日本文化人類学会 公開シンポジウム「縮減する社会における家族・親族研究と文化人類学—いかようにもありうる生の尊厳に向けて」」, 東北大学 (2023年12月17日)
- Daisuke Shinagawa “Linguistic fieldwork in Kilimanjaro: Things you may only find in the field”, IERS symposium Language Documentation and Linguistics: Community-based approaches, Institute for Educational Research and Service, International Christian University (10 June, 2023)
- 品川大輔「スワヒリ語のヴァリエーション：分岐と接触」第63回現代中東イスラーム世界・フィールド研究会, 香川大学 (2023年10月7日)
- Daisuke Shinagawa and Seunghun Lee “Phonetic typology of complex fricatives in southern Bantu languages: preliminary observations and a typological overview” AA 研共同研究共同利用課題「通言語学的にみた音声類型論」2023年度第1回研究会, (2023年6月3日)
- 品川大輔「スワヒリ語内陸変種の構造的バリエーションを把握するための類型論的調査に向けて」, AA 研共同研究共同利用課題「多言語混在状況を前提とした記述言語学研究の新展開」2023年度第3回研究会, (2024年2月11日)
- Daisuke Shinagawa “How to grasp and analyse the current dynamism and variation of (Inland) Swahili varieties”, Research on Western Swahili: 1st Workshop and study meeting, online (17 February, 2024)
- Daisuke Shinagawa “Introduction”, International workshop “A new perspective on descriptive linguistics in Africa: based on the translanguaging ecology”, Research Institute for Languages and Cultures of Asian and Africa, Tokyo University of Foreign Studies (4 November, 2023)
- 武内進一「アフリカが求める国際秩序」日本国際政治学会2023年度研究大会(部会14『グローバル・サウス、その意味、共通点、多様性』), (2023年11月12日)
- 武内進一「アフリカ、グローバルサウス、国際秩序」日本貿易振興機構アジア経済研究所主催「『グローバルサウス』の新興国と世界秩序の再編」, (2024年3月6日)
- 林剛平「山形県西置賜郡のブナ林の地球観測衛星画像をマタギと一緒に見る」第135回日本森林学会, 東京農業大学 (2024年3月8日～11日)
- 林剛平「12年間の山形県放射線量調査と森林資源利用の今後の見通し」第25回「環境放射能」研究会, (つくば) 高エネルギー加速器研究機構 (2024年3月11日～13日)
- 村津蘭「SNSを通じた呪術・治療の知識流通の変容—ベナンの薬草師・呪術師の実践を事例として」日本アフリカ学会 第60回研究大会, 幕張国際研修センター (2023年5月14日)
- 村津蘭「マルチモーダル・エスノグラフィーとWebサイトの可能性」日本文化人類学会第57回研究大会, 県立広島大学 (2023年6月3日)
- 村津蘭「アフリカのペンテコステ・カリスマ系教会における妖術と憑依—ベナンの事例から」AA 研フォーラム, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (2023年6月14日)
- Ran Muratsu “The Transformation of Possession through the Media: Cases from Pentecostal-Charismatic Christianity in West Africa”, Workshop “Affective Technologies of Religious and Spiritual Healing”, Kyoto University (2023年6月17日～18日)

村津蘭 「メディアにおける憑依と規範—西アフリカのペンテコステ・カリスマ系教会を事例として」 科学研究費補助金基盤 A 「「妖術」はどこから犯罪か？」 ミーティング, オンライン (2023年9月30日)

Ran Muratsu “Technologies of Affect in Possession on the Media: Cases from Pentecostal-Charismatic Christianity in West Africa”, The 19th IUAES-WAU World Anthropology Congress, Delhi University (14-20 October, 2023)

村津蘭 「合評会：村津蘭 著『ギニア湾の悪魔—キリスト教系新宗教をめぐる情動と憑依の民族誌』 (世界思想社、2023年)」, 第83回ASCセミナー, 東京外国語大学 (2023年11月1日)

Ran Muratsu “Capturing the Uncanny: Anthropological Research and Creative Collaboration "Workshop "Multi-Modal Anthropologies across the Pacific”, Tokyo University of Foreign Studies (5 January, 2024)

5.1.5. 一般向け講演

石川博樹 「アフリカ食文化史研究の最前線：エチオピアの酸っぱいパンケーキの謎に迫る」 第18回四大学連合文化講演会, 東京医科歯科大学 (2023年8月26日)

石川博樹 「アフリカ食文化史研究が問いかけるもの」, 西東京三大学共同サステイナビリティ国際社会実装研究センター サステイナビリティ研究オープンセミナー 第2回 「世界の食と農」, 東京農工大学 (2023年12月2日)

大石高典 「犬から人類社会をみる」, シンポジウム「犬からみた人類史・紀州編—猟犬からペットへ」 (熊楠をもっと知ろう！シリーズ第58回), 南方熊楠顕彰館 (2023年9月9日)

椎野若菜 「世界日本の戯曲研修セミナー@オンライン 2023『現代女流戯曲選集』を読む！ ゲストレクチャー：テーマの寡婦／未婚女性」, (2023年10月18日)

椎野若菜 「人類学者が読む『もろさわようこ』」, FENICS サロン×ジェンダー・セクシュアリティ人類学研究会」 FENICS・セクシュアリティ人類学研究会・志縁の苑, うちなあの家 (2023年12月9日)

Daisuke Shinagawa “Historia na mafanikio yatakayotokea utafiti wa Kiswahili kutokana na ushirikiano kati ya Tanzania na Japani” Starehe ya Siku ya Kiswahili Duniani, Ubalozzi wa Tanzania katika Japani” (世界スワヒリ語の日を記念する式典でのスピーチ), 在日タンザニア大使館 (2023年7月2日)

武内進一 「クーデタと仏軍撤退から考える昨今の西アフリカ・フランス関係」 IDDP (英国開発学勉強会), (2023年5月27日)

武内進一 「アフリカ情勢を深く理解するために」 外務省研修講義, (2023年6月1日)。

武内進一 「ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ」 東京外国語大学／読売新聞立川支局共催連続市民講座 (第5回), (2023年9月2日)

武内進一 “Quel rôle pour la recherche africaine et japonaise pour une meilleure approche des enjeux de la coopération au développement ? » Renforcer la résilience des communautés face aux risques multi-dimensionnels: Leçons apprises de l’approche japonaise au Sahel”, Organisé par l’Ambassade du Japon au Sénégal et Timbukutu Institute (2023年10月12日)

武内進一「コンゴ民主共和国—継続する紛争の現状と未来」立川市生涯学習推進センター・市民協働課主催多文化共生・国際理解講座, (2024年2月29日)

武内進一「アフリカとロシア」防衛省講演, (2024年3月7日)

村津蘭「人類学×アートから考える」『拡張するイメージ 人類学とアートの境界なき探究』(亜紀書房) 刊行記念, 京都市立芸術大学ギャラリー (2023年6月27日)

村津蘭「人類学×アートから考える」『拡張するイメージ 人類学とアートの境界なき探究』(亜紀書房) 刊行記念, 下北沢 B&B のトークイベント, (2023年7月13日)

村津蘭「トークイベント「アフリカの宗教にせまる—イスラーム, キリスト教, 在来信仰」」, 紀伊国屋書店新宿本店 (2023年7月19日)

宮本佳和「チャンスとしての土地改革—ナミビアの牧畜民ヒンバ及びヘレロの事例から」公開シンポジウム「アフリカの冒険的現代—偶然化に託す希望のチカラ」, 関西外国語大学/オンライン (2023年3月5日)

宮本佳和「『祖先の土地』返還論争を再解釈する—ナミビアのヘレロの事例から」, 第79回 ASC セミナー/日本アフリカ学会関東支部 2023年度第3回例会, 東京外国語大学/オンライン (2023年7月24日)

5.1.6. 企画・運営・事務局等

椎野若菜 第1回「人類学からはじめる食・農ビジネス」FENICS 連続トーク「フィールドワークと生き方・働き方」(2023年6月17日)

椎野若菜 コモンズカフェ/第81回 ASC セミナー, “Care and Reunification in a Cape Verdean Family: Changing Articulations of Family and Legal Ties (講師: Heike Drotbohm)”, Tokyo University of Foreign Studies (2023年10月17日)

椎野若菜 コモンズカフェ/第85回 ASC セミナー, “Doing research in transboundary conflict contexts: Reflections from the field in Uganda (講師: Constance Mudondo)”, Tokyo University of Foreign Studies (2023年11月21日)

椎野若菜 GEAHSS 若手 zoom ミーティング, (2023年10月30日)
(https://geahsoffice.wixsite.com/geahss/single-post/news_20231024)

椎野若菜 FENICS 協力イベント「日本とケニアの子どもたちをつなぐ〜むさしの学園とワルドルフ・ウッドランズスクール〜」, 東京外国語大学 (2023年12月1日)

椎野若菜 FENICS 共催イベント「雪と氷の世界からせまる地球環境〜立山と南極〜」, 桐朋学園 (2024年2月7日)

椎野若菜 FENICS 協力イベント・シンポジウム「なぜ日本のジェンダー指数は低いのか—経済、法律、教育、政治の各分野から考える」, 「若手」・女性のためのテーマ別ディスカッション, オンライン (2024年2月18日)

武内進一 「スーダンの軍事衝突—現状、背景、見通し」共催: 科研費学術変革領域研究(A)「イスラーム的コネクティビティに みる信頼構築: 世界の分断をのりこえる戦略知の創造」総括班, 「紛争影響地域における信頼・平和構築」, 東京外国語大学現

代アフリカ地域研究センター, (2023年4月27日)

中山裕美 南山大学アジア・太平洋研究センター主催・グローバル・ガバナンス学会共催
講演会「The African Economic Development Trajectory: The Role of China, Japan and
Russia」(講師: Horman Chitonge, コメンテーター: Bomino Georges Bosakaibo, 司
会: 中山裕美), (2023年7月17日)

中山裕美 国際関係研究所/第87回ASCセミナー「ボーダレスな危機連鎖時代の社会と
ガバナンス」研究会, 「リビア紛争と地域・国際情勢の連動: 不安定化の要因と今後
の展望」(講師: 小林周, コメンテーター: 武内進一, 司会: 中山裕美), (2024年
1月16日)

宮本佳和 「合評会: 村津蘭 著『ギニア湾の悪魔—キリスト教系新宗教をめぐる情動と憑
依の民族誌』(世界思想社、2023年)」(講師: 村津蘭, コメンテーター: 浜本満,
西井涼子, 司会: 宮本佳和), 第83回ASCセミナー/日本アフリカ学会関東支部2023
年度第7回例会, 東京外国語大学/オンライン (2023年11月1日)

宮本佳和 「Navigating Uncertainty: The Interplay of 'Magical Football' and 'Football Magic' in
Cameroonian Football」(講師: Hassan Yosimbom, 司会: 宮本佳和), 第86回ASCセ
ミナー/日本アフリカ学会関東支部2023年度第10回例会, 東京外国語大学/オンラ
イン (2023年12月13日)

5.2. 教育活動

5.2.1. 本学内における今年度担当授業

教員名	学部/研究科	科目	題目	学期
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフ ィールド地域研究1	アフリカ歴史文化論	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフ ィールド地域研究2/	アフリカ歴史文化論	秋
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフ ィールド地域研究1	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフ ィールド地域研究2	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	秋
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフ ィールドワーク1	アジア・アフリカにおけるフィールドワー ク	春
石川博樹	総合国際学研究科	アジア・アフリカフ ィールドワーク2	アジア・アフリカにおけるフィールドワー ク	秋
大石高典	世界教養プログラム	専攻言語(英語II-1)	アフリカ研究のための英語1	春
大石高典	世界教養プログラム	専攻言語(英語II-6)	アフリカ地域研究のための英語2	秋
大石高典	世界教養プログラム	アフリカ地域基礎2	アフリカ地域研究入門2	秋
大石高典	世界教養プログラム	アフリカ地域基礎3	アフリカから「地域研究」を展望する	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究1	民族誌から学ぶアフリカの生活世界1	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究2	民族誌から学ぶアフリカの生活世界2	秋
大石高典	国際社会学部	地域社会研究入門1	地域社会とSDGs	春

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究演習 3	フィールド人類学・地域研究	春
大石高典	国際社会学部	アフリカ地域研究演習 4	フィールド人類学・地域研究II	秋
大石高典	国際社会学部	卒業論文演習 1	卒業論文/卒業研究ゼミ Part 1	春
大石高典	国際社会学部	卒業論文演習 2	卒業論文/卒業研究ゼミ Part 2	秋
大石高典	国際社会学部	卒業研究	プロセスとしての卒業論文	通年
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17	生態人類学の理論と方法I	春
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	生態人類学の理論と方法II	秋
大石高典	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	修士論文ゼミ（生態人類学講究）1	春
大石高典	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	修士論文ゼミ（生態人類学講究）2	秋
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 1	生態人類学講究 1	春
大石高典	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 2	生態人類学講究 2	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	専攻言語(英語I-9)	英語で学ぶアフリカ II (E)	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	教養外国語(フランス語 B3)	フランス語で見るアフリカ I	春
坂井真紀子	世界教養プログラム	教養外国語(フランス語 B4)	フランス語で見るアフリカ II	秋
坂井真紀子	世界教養プログラム	アフリカ地域基礎 1	アフリカ地域研究入門 1	春
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究 1	アフリカ農村社会学	春
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究 2	アフリカと開発	秋
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究演習 1	アフリカ地域ゼミ	春
坂井真紀子	国際社会学部	アフリカ地域研究演習 2	アフリカ地域ゼミ	秋
坂井真紀子	国際社会学部	卒業論文演習 1	卒業論文演習 I	春
坂井真紀子	国際社会学部	卒業論文演習 2	卒業論文演習 II	秋
坂井真紀子	国際社会学部	卒業研究		通年
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17	仏語圏アフリカ地域研究 I	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	仏語圏アフリカ地域研究 II	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	アフリカ地域研究ゼミ	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	アフリカ地域研究ゼミ(2)	秋
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 1	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開発～	春
坂井真紀子	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究	アフリカ地域研究～農村の暮らしと開発～	秋

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
		2		
椎野若菜	国際社会学部	アフリカ地域研究 1	アフリカ人類学：ジェンダー・セクシュアリティ、家族・親族、若者に注目して	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールドサイエンス実践研究 1	現代アフリカにおけるジェンダー・セクシュアリティの人類学	春
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド人類学 1	African Anthropology(1): Focusing on Women's condition in East Africa	春
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド人類学 2	African Anthropology (2): Focusing on Women and Youth in Africa	秋
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 1	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	春
椎野若菜	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド地域研究 2	アジア・アフリカ歴史・人類学研究	秋
品川大輔	世界教養プログラム	諸地域言語 (スワヒリ語 1)	スワヒリ語 (初級)	春
品川大輔	世界教養プログラム	諸地域言語 (スワヒリ語 2)	スワヒリ語 (初級)	秋
品川大輔	世界教養プログラム	アフリカの言語 1	ベンバ語	夏
品川大輔	世界教養プログラム	アフリカの言語 1	ベンバ語	夏
品川大輔	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	修士研究：記述言語学	春
品川大輔	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	修士研究：記述言語学	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学 1	バントゥ諸語系統内類型論の射程	春
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学 2	バントゥ諸語系統内類型論の射程	秋
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールドワーク 1	アジア・アフリカにおけるフィールドワーク	春
品川大輔	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールドワーク 2	アジア・アフリカにおけるフィールドワーク	秋
出町一恵	世界教養プログラム	専攻言語 (英語 III-7)	経済思想を読む 1	春
出町一恵	世界教養プログラム	専攻言語 (英語 III-8)	経済思想を読む 2	秋
出町一恵	世界教養プログラム	AI・データサイエンス 1	分析道具としてのデータサイエンス入門 (DS202, リレー講義)	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 1	国際経済学I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学 2	国際経済学II	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済概論 2	国際金融概論	秋
出町一恵	国際社会学部	国際経済学演習 1	国際経済論 (専門演習) I	春
出町一恵	国際社会学部	国際経済学演習 2	国際経済論 (専門演習) II	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業論文演習 1	国際経済論 (卒論演習) I	春
出町一恵	国際社会学部	卒業論文演習 2	国際経済論 (卒業論文)	秋
出町一恵	国際社会学部	卒業研究	国際経済論 (卒業論文)	通年
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究 3	Research Seminar on International Economics	春

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
出町一恵	総合国際学研究科	国際関係研究 4	Research Seminar on International Economics	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	協働分野セミナーI	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーI	協働分野セミナーII	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	協働分野セミナーII	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーII	協働分野セミナーII	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ 研究基礎 A	サステナビリティ研究基礎 A	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ 研究基礎 B	サステナビリティ研究基礎 B	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	Sustainability Research Advanced Practicum III	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIII	Sustainability Research Advanced Practicum III	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	Interdisciplinary Seminar IV	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーIV	Interdisciplinary Seminar IV	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーV	Interdisciplinary Seminar V	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーV	Interdisciplinary Seminar V	秋
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーVI	Interdisciplinary Seminar VI	春
出町一恵	総合国際学研究科	協働分野セミナーVI	Interdisciplinary Seminar VI	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ 研究先端演習I	サステナビリティ研究先端演習I	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ 研究先端演習I	サステナビリティ研究先端演習I	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ 研究先端演習II	サステナビリティ研究先端演習II	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ 研究先端演習II	サステナビリティ研究先端演習II	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ 研究先端演習III	Sustainability Research Advanced Practicum III	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ 研究先端演習III	Sustainability Research Advanced Practicum III	秋
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ 研究先端演習IV	Sustainability Research Advanced Practicum IV	春
出町一恵	総合国際学研究科	サステナビリティ 研究先端演習IV	Sustainability Research Advanced Practicum IV	秋
出町一恵	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	春
出町一恵	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	秋
出町一恵	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	春
出町一恵	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	秋
中川裕	言語文化学部	音声学概論 1	音韻分析基礎	春
中川裕	言語文化学部	音声学概論 2	音韻論概説：音素・素性	秋
中川裕	言語文化学部	音声学演習 1	音声学演習 1	春
中川裕	言語文化学部	音声学演習 2	音韻論演習	秋
中川裕	言語文化学部	卒業論文演習 1	音声学・音韻論卒論演習	春
中川裕	言語文化学部	卒業論文演習 2	音声学卒論演習	秋
中川裕	言語文化学部	卒業研究		通年
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究 1	音響音声学の観察法	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学研究 2	音声学再入門	秋

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
中川裕	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ1	修論執筆	春
中川裕	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ2	修士論文：音声学・音韻論	秋
中川裕	総合国際学研究科	音声学1	音声学・音韻論セミナー1	春
中川裕	総合国際学研究科	音声学2	音声学・音韻論セミナー2	秋
中山俊秀	世界教養プログラム	多文化社会1	Language revitalization and community engagement	秋
中山俊秀	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学1	言語使用を基盤として文法を考える：理論と方法	春
中山俊秀	総合国際学研究科	アジア・アフリカフィールド言語学2	言語使用を基盤として文法を考える：新たな展開	秋
中山裕美	国際社会学部	国際政治概論2	国際政治理論	春
中山裕美	国際社会学部	国際政治論1	グローバルガバナンス論と難民・移民問題	春
中山裕美	国際社会学部	国際政治論2	地域主義比較分析	秋
中山裕美	国際社会学部	国際政治論演習1	国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	国際政治論演習2	国際協調	秋
中山裕美	国際社会学部	卒業研究演習1	国際協調	春
中山裕美	国際社会学部	卒業研究演習2	国際協調	秋
中山裕美	国際社会学部	卒業研究	国際協調	通
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係研究1	国際協調	春
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係研究2	国際協調	秋
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係論1	国際協調	春
中山裕美	総合国際学研究科	国際関係論2	国際協調	秋
箕浦信勝	世界教養プログラム	アフリカの言語1	マダガスカル語	春
箕浦信勝	世界教養プログラム	アフリカの言語2	マダガスカル語	秋
箕浦信勝	世界教養プログラム	基礎演習	論文作成法とプレゼンテーション	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学概論3	言語学概論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学概論4	言語学概論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学3	形態論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学4	統語論入門	秋
箕浦信勝	言語文化学部	言語学演習5	言語記述のための類型論	春
箕浦信勝	言語文化学部	言語学演習6	言語記述のための類型論	秋
箕浦信勝	言語文化学部	卒業研究演習1	言語学卒論演習	春
箕浦信勝	言語文化学部	卒業論文演習2	言語学卒論演習	秋
箕浦信勝	言語文化学部	卒業研究	言語学卒業論文	通
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究1	個別言語の文法記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学研究2	個別言語の文法記述研究	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ1	言語学修論演習	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ2	言語学修論演習	秋
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学1	言語記述研究	春
箕浦信勝	総合国際学研究科	言語学2	言語記述研究	秋
武内進一	国際社会学部	国際政治概論1	国際協力の史的展開	春
武内進一	国際社会学部	国際協力論演習1	国際社会の思想と行動A	春
武内進一	国際社会学部	国際協力論演習2	国際社会の思想と行動B	秋

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
武内進一	国際社会学部	国際協力論 2	アフリカの紛争と平和構築	冬
武内進一	国際社会学部	卒業研究演習 1	卒業論文演習 I (国際協力論)	春
武内進一	国際社会学部	卒業研究演習 2	卒業論文演習 II (国際協力論)	秋
武内進一	国際社会学部	卒業研究		通年
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 17	現代アフリカ政治	春
武内進一	総合国際学研究科	アジア・アフリカ・オセアニア地域研究 18	国際関係論における開発	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 1	IDEAS 国際開発論講義(1)	春
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 2	IDEAS 国際開発論講義(2)	秋
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 3	IDEAS 国際開発論講義(3)	春
武内進一	総合国際学研究科	国際関係研究 4	IDEAS 国際開発論講義(4)	秋
武内進一	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 1	修士論文指導	春
武内進一	総合国際学研究科	修士論文修士研究ゼミ 2	修士論文指導	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究基礎 A	Foundations of Sustainability Research A	春
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究基礎 B	Foundations of Sustainability Research B	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー I	協働分野セミナー I	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー I	協働分野セミナー I	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー II	協働分野セミナー II	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー II	協働分野セミナー II	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー III	協働分野セミナー III	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー III	協働分野セミナー III	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー IV	協働分野セミナー IV	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー IV	協働分野セミナー IV	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー V	協働分野セミナー V	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー V	協働分野セミナー V	秋
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー VI	協働分野セミナー VI	春
武内進一	総合国際学研究科	協働分野セミナー VI	協働分野セミナー VI	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 I	サステイナビリティ研究先端演習 I	春
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 I	サステイナビリティ研究先端演習 I	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 II	サステイナビリティ研究先端演習 II	春
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 II	サステイナビリティ研究先端演習 II	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 III	サステイナビリティ研究先端演習 III	春
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 III	サステイナビリティ研究先端演習 III	秋
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ研究先端演習 IV	サステイナビリティ研究先端演習 IV	春

教員名	学部／研究科	科目	題目	学期
		研究先端演習IV		
武内進一	総合国際学研究科	サステイナビリティ 研究先端演習IV	サステイナビリティ研究先端演習IV	秋
武内進一	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	春
武内進一	総合国際学研究科	学外実践実習	学外実践実習	秋
武内進一	総合国際学研究科	学内実践実習	学内実践実習	春
武内進一	総合国際学研究科	学内実践実習	学内実践実習	秋
宮本佳和	国際社会学部	アフリカ地域研究 2	民族誌からみるアフリカの政治体系	秋
Kinyua, Laban Kithinji	世界教養プログラム	専攻言語（英語II- 2）	African Society and Politics 1	春
Kinyua, Laban Kithinji	世界教養プログラム	専攻言語（英語II- 7）	African Society and Politics 2	秋

5.2.2. 本学以外における非常勤講師活動

教員名	機関名	学部等	科目名	開講時期
石川博樹	青山学院大学	文学部史学科	東洋史特講	春・秋
石川博樹	慶應義塾大学	商学部	歴史Ⅱ	秋
石川博樹	学習院大学	文学部史学科	西洋史特殊講義	春
石川博樹	放送大学	東京渋谷学習センター	アフリカ史のなかの女性たち	第1学期
出町一恵	慶應義塾大学	法学部	アフリカ社会論	春
出町一恵	慶應義塾大学	法学部	アフリカ社会特殊研究	春
大石高典	亜細亜大学	国際関係学部	アフリカ開発論	春
	立教大学	大学院文学研究科	文化人類学演習 1A	春
品川大輔	明治学院大学	言語文化研究所	スワヒリ語初級	春・秋
品川大輔	明治学院大学	言語文化研究所	スワヒリ語中級	春・秋
品川大輔	明治学院大学	言語文化研究所	スワヒリ語上級	春・秋
品川大輔	東京大学	文学部・人文社会系研 究科言語学専修課程	バントゥ諸語研究	秋
武内進一	日本貿易振興 機構アジア経 済研究所	IDEAS	History of Development	2023年9～ 12月
村津蘭	慶應大学	文学部	人間科学特殊ⅢA（比較文化関係論）	春
村津蘭	大妻女子大学	人間関係学部	世界の歴史と文化	春
宮本佳和	京都産業大学	文化学部	文化人類学	秋
アルタンジョ ラー	金沢星稜大学	人文学部国際文化学科	Folk Religions	春

5.2.3. 修士・博士論文指導

a. 修士論文（東京外国語大学）

指導教員	論文タイトル	論文執筆者
武内進一	武力紛争後の地域における法的多元性の実態—ウガンダ北部の土地紛争を事例として：連携と脱緊張化の可能性	花田珠里
武内進一	日本の対アフリカ外交における国益	笠原碩晃
武内進一	How have external factors been affecting education in Africa?: Analyzing throughout the history of education in Rwanda before and after the genocide	高尾タビタ
武内進一	産油国アンゴラにおける政治変動—ドス・サントス一族と石油産業支配の分析	大塚雅楽

b. 博士論文

指導教員	主/副	論文タイトル	執筆者	提出大学
武内進一	審査員	Seeking to Improve Local Taxation Performance in the LGs: What are the Determinants of an Effective Tax Regime in Malawi Local Government	Moyo Tennyson John	政策研究大学院大学
武内進一	審査員	Political Use of Prolonged Displacement, Encampments, and the Peace Process through Third Party Intervention —A Case Study of the Democratic Republic of Congo’s Protracted Conflict	Masako Yonekawa	東京外国語大学
武内進一	審査員	The Cultural Impact of Street Vending on Urban Households: Roaming Dakar Markets in the Quest for Better Quality of Life	Fafa Sene	東京外国語大学
武内進一	審査員	Development of a myoelectric control system for a multidegree- of-freedom myoelectric prosthetic hand based on a long-term clinical evaluation	黒田勇幹	電気通信大学
武内進一	審査員	日本の外国人介護従事者への受容意識と支援課題 —持続可能な労働とサービスの質を「三者構成」視点から問う	廣橋雅子	東京外国語大学
武内進一	審査員	South Africa’s Stunted Developmentalism: Challenges of Ideology and Practice in Building a Developmental State	Canisius George Lekoroatsoana	University of Cape Town

5.3. 対外活動、社会貢献

5.3.1. 外部機関からの委託業務

教員・ 研究員名	機関名	役職名	期間	内容/備考
石川博樹	国立民族学博物館	共同研究員	2023.10.1~2024.3.31	共同研究会への参加
大石高典	日本アフリカ学会	評議員	2023.4.1~2024.3.31	学会運営
大石高典	日本アフリカ学会	選挙管理委員	2023.11.1~2024.3.31	学会役員選挙実務
大石高典	日本熱帯生態学会	庶務幹事	2023.4.1~2024.3.31	学会運営

教員・研究員名	機関名	役職名	期間	内容/備考
大石高典	生き物文化誌学会	評議員	2023.4.1～2024.3.31	学会運営
大石高典	総合地球環境学研究所	共同研究員	2023.4.1～2024.3.31	共同研究プロジェクトへの参加
大石高典	帝京科学大学附属ワールドミュージアム	外部評価委員	2023.4.1～2024.3.31	博物館活動についての評価
大石高典	大同生命国際文化基金	推薦委員	2023.4.1～2024.3.31	学術賞候補者の推薦
椎野若菜	日本アフリカ学会	評議員	2022.4.1～2024.3.31	学会運営
椎野若菜	比較家族史学会	理事	2011～	渉外委員
椎野若菜	ナイル＝エチオピア学会	評議員	2010～	学会運営
椎野若菜	民族学博物館	共同研究員	2020.10～	共同研究会への参加
椎野若菜	マケレレ大学	外部審査委員	2020.7～	
椎野若菜	人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences (GEAHSS 略称ギース)	委員長	2023.10.1～	第7期幹事学協会(副委員長 任期：2022年10月1日～2023年9月30日)
品川大輔	日本アフリカ学会	編集委員	2020.4.1～2024.3.31	学会誌編集
武内進一	日本アフリカ学会	副会長	2022.4.1～2024.3.31	学会運営
武内進一	NPO法人UAPACA A国際保全パートナーズ	理事	2023.10.1～2025.9.30	NPO運営
アルタンジョラー	国立民族学博物館	外来研究員	2023.4.1～2024.3.31	モンゴル人社会の宗教的実践に関する調査協力
アルタンジョラー	NPO東京自由大学	理事	2023.4.1～2024.3.31	運営協力

5.3.2. マスメディアからの取材・問い合わせへの対応

対応者名	媒体	媒体名・番組名等	対応内容	備考
大石高典	新聞	学校法人信学会・長野県民新聞社 大学受験情報誌『飛翔』	「自分にしかできない自由な研究を現地の人と触れあって発見、考察するフィールドワーク」	2023年5月12日
大石高典	新聞	紀伊民報 AGARA 紀伊民報 文	「「犬からみた人類史」 南方熊楠顕彰館でシ	2023年9月8日

対応者名	媒体	媒体名・番組名等	対応内容	備考
		化・芸能	ンポジウムと写真展、和歌山・田辺市」	
出町一恵	テレビ	NHK スペシャル「混迷の世紀」	第13回「世界”債務危機”は止められるか」 関しアフリカ債務について情報提供	2023年11月19日放送
出町一恵	テレビ	NHK BS1「国際報道2023」	ガーナ政府債務、ユーロ債について情報提供	2023年10月26日放送
武内進一	その他	朝日新聞デジタル	「邦人退避の拠点ジブチ なぜ自衛隊の拠点 があるのか その重要性とは」	2023年4月27日
武内進一	新聞	This Week in Asia (South China Morning Post)	Japan PM Kishida's Africa tour lays groundwork for G7 summit, as China and Russia concerns loom large	2023年5月11日。取材協力。
武内進一	新聞	朝日小学生新聞	「スーダンの武力衝突」	2023年6月1日
武内進一	その他	朝日新聞デジタル	「アフリカに浸透するワグネル」	2023年7月3日
武内進一	新聞	読売新聞	「アフリカ 西側議論と距離」	2023年8月23日
武内進一	新聞	日本経済新聞	「TICAD30年、支援は『質』重視」	2023年8月27日。取材協力。
武内進一	テレビ	TV朝日：天下容子ワイド！ス クランブル	「フランスの旧植民地で相次ぐクーデター」	2023年9月5日
武内進一	ラジオ	J-Wave	「LIVING ON THE EARTH」インタビュー	2023年9月18～21日
武内進一	新聞	朝日新聞デジタル	「アフリカのクーデター、旧フランス領で相 次ぐ意外な理由とは」	2023年11月16日
武内進一	雑誌	『国際開発ジャーナル』	「アフリカと日本の双方向の交流を促し、共 にSDGs達成に貢献 東京外国語大学現代ア フリカ地域研究センター」	『国際開発ジャーナル』804号（2023年12月）、 34ページ。
武内進一	その他	国際政治チャンネル	「アフリカの紛争2024」	『国際政治チャンネル』（2024年1月12日）
武内進一	その他	Web マガジン So-gúd（ソウグ ウ）	「ダイヤモンドを買うと、誰かの血が流れ る？～紛争鉱物の課題と現状～」	Web マガジン So-gúd（ソウグウ）2024年2月19日 公開。https://exidea.co.jp/so-gud/sdgs/tufs/
武内進一	新聞	朝日新聞	「大量殺人止めるのが先決」	2024年3月5日
武内進一	その他	朝日新聞デジタル	「ガザ攻撃 ジェノサイドの定義よりも、ま ず大量殺戮を止める行動を」	2024年3月5日
武内進一	新聞	朝日新聞	「女性議員6割超えても——ルワンダ、数字 で見えない実情は」	2024年3月8日。取材協力

対応者名	媒体	媒体名・番組名等	対応内容	備考
武内進一	新聞	朝日新聞	「グローバルサウス 世界に一石」	2024年3月21日
中山俊秀	新聞	朝日新聞 GLOBE	インタビュー記事「言語は人間のアイデンティティだ」	2023年8月4日

5.4. 外部資金の獲得

5.4.1. 代表者

代表者名	資金名	資金提供元	期間
石川博樹	科学研究費 基盤研究 (B) 「第 2 次イタリア・エチオピア戦争をめぐる人種・民族問題の研究」 (21H00556)	文部科学省・日本学術振興会	2021.4.1~2025.3.31
大石高典	2023 年度研究助成「アフリカ熱帯林の保全政策が地域住民の食文化に及ぼす影響に関する人類学研究」	味の素食の文化センター	2024.4.1~2026.3.31
坂井真紀子	科学研究費 基盤研究(C) 「カメルーンにおける定期市ネットワークの社会学的研究」 (18H00776)	文部科学省・日本学術振興会	2018.4.1~2024.3.31
椎野若菜	科学研究費 基盤研究 (B) 「現代東部アフリカ社会をゆるがすセクシュアリティ・結婚の変容とシングル化」 (22H00769)	文部科学省	2022.4.1~2026.3.31
品川大輔	科学研究費 基盤研究 (B) 「パラメーター連動に基づくバントゥ諸語類型論：多様性と普遍性の原理解理解に向けて」 (23H00622)	文部科学省・日本学術振興会	2023.4.1~2028.3.31
武内進一	科学研究費 基盤研究 (A) 「アフリカ国家論の再構築—農村からの視点」 (21H04390)	文部科学省・日本学術振興会	2021.4.5~2026.3.31
中川裕	挑戦的研究 (開拓) 「カラハリ狩猟採集民の持続可能な識字活動の基盤」 (22K18249)	文部科学省・日本学術振興会	2022.6.30~2027.3.31
中川裕	科学研究費 基盤研究 (A) 「言語音の多様性の外延の理解拡大：3 基軸データによるカラハリ言語帯の音韻類型論」 (20H00011)	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1~2025.3.31
中川裕	科学研究費 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 B) 「カラハリ・コエにおける言語と音楽の相互関係：クリックとポリリズム」 (18KK0006)	文部科学省・日本学術振興会	2018.10.9~2023.3.31
中山俊秀	科学研究費 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 B) 「タイ少数民族における持続可能なコミュニティ協働型言語・文化ナレッジベースの構築」 (20KK0007)	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1~2024.3.31
中山俊秀	科学研究費 基盤研究(B) 「言語喪失の動態の研究：沖永良部若年層話者における言語消滅メカニズムの解明」 (20H01257)	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1~2024.3.31

代表者名	資金名	資金提供元	期間
中山裕美	科学研究費 基盤研究(C)「生命科学技術による国際秩序変容の分析：生体情報を用いた移民管理の普及を事例として」(21K01367)	文部科学省・日本学術振興会	2021.4.1～2025.3.31
村津蘭	科学研究費 若手研究「アフリカの呪術をめぐる情動の研究—マルチモーダル・アプローチによる」(23K12339)	文部科学省・日本学術振興会	2023.4.1～2028.3.31
宮本佳和	科学研究費 研究活動スタート支援「ナミビア牧畜社会の伝統的権威の復活に関する人類学的研究」(21K20078)	文部科学省・日本学術振興会	2021.8.30～2025.3.31
宮本佳和	科学研究費 若手研究「祖先の土地の生成に関する人類学的研究—ナミビア牧畜社会の伝統的権威と国家」(23K12351)	文部科学省・日本学術振興会	2023.4.1～2027.3.31
大石晃史	科学研究費 基盤研究(C)「公共サービスをめぐる紛争の解決モデル：ラテンアメリカを事例として」(20K04995)	文部科学省・日本学術振興会	2020.4.1～2024.3.31
大石晃史	科学研究費 基盤研究(C)「紛争の拡散ダイナミクス：感染症モデルを用いたネットワーク科学的アプローチ」(23K01277)	文部科学省・日本学術振興会	2023.4.1～2027.3.31

5.4.2. 分担者

分担者名	資金名	資金提供元	代表者名	期間
大石高典	科学研究費 基盤研究(C)「フィールドの共創的な再現：差異と類似をめぐる教育実践から構築する公共的な人類学」(21K01057)	文部科学省・日本学術振興会	飯塚宜子(京都大学)	2021.4.1～2024.3.31
大石高典	科学研究費 基盤研究(B)「フィールドワークとフィールド実験によるホモルーデンス論の展開」(20H01409)	文部科学省・日本学術振興会	島田将喜(帝京科学大学)	2020.4.1～2025.3.31
大石高典	科学研究費 基盤研究(B)「焼畑による地域資源の活用と創出：日本各地の焼畑復活から描く食・森・地域の再構築」(21H03697)	文部科学省・日本学術振興会	鈴木玲治(京都先端科学大学)	2021.4.1～2026.3.31
坂井真紀子	科学研究費 基盤研究(B)「アフリカ農民の生計における小規模な現金獲得活動と『在来技術革新史』への視角」(18H00776)	文部科学省・日本学術振興会	杉山祐子(弘前大学)	2018.4.1～2023.3.31
椎野若菜	科学研究費 基盤研究(B)「富の体現、再配分政治に対する実践とアセンブリ形成：アフリカ都市中間層ボトムの研究」	文部科学省・日本学術振興会	白石壮一郎	2022.4.1～2026.3.31

分担者名	資金名	資金提供元	代表者名	期間
	(22H03833)			
椎野若菜	二国間交流事業 ウガンダ(OP)との共同研究「東アフリカのポスト大学大衆化状況と人社系の進路 決定：その考慮事項と選択構造の解明」	日本学術振興会	白石壮一郎	2022.4.1 ~2024.3.31
椎野若菜	科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「ケニアのスラムにおける映像民族誌及びデジタルアーカイブのメディアアートの拡張」(19K21670)	文部科学省・日本学術振興会	野口靖 (東京工芸大学)	2019.6.28~2024.3.31
品川大輔	科学研究費 基盤研究 (C) 「A crosslinguistic study of prosody of particles: Japanese and Bantu languages」 (20K00578)	文部科学省・日本学術振興会	李勝勳 (国際基督教大学)	2020.4.1 ~2023.3.31
品川大輔	科学研究費 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) 「Microvariation in Bantu languages of South Africa: building theories from typology data」 (21KK0005)	文部科学省・日本学術振興会	李勝勳 (国際基督教大学)	2021.10.7~2027.3.31
武内進一	科学研究費 学術変革領域研究 (A) 「紛争影響地域における信頼・平和構築」 (20H05829)	文部科学省・日本学術振興会	石井正子 (立教大学)	2020.11.19~2025.3.31
中川裕	科学研究費 基盤研究 (S) 「アフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける子育ての生態学的未来構築」 (22H04929)	文部科学省・日本学術振興会	高田明	2022.4.27~ 2027.3.31
中川裕	科学研究費 基盤研究 (B) 「現存言語資料の適正資源化：データ管理体制確立と資源再活用モデル構築」	文部科学省・日本学術振興会	加藤重広 (北海道大学)	2023.4.1~2027.3.31
中山裕美	科学研究費 基盤研究 (B) 「国際移民をめぐる地域協力枠組の比較研究：アジア・アフリカ・中東・中南米の事例分析」 (21H00686)	文部科学省・日本学術振興会	明石純一 (筑波大学)	2021.4.1~2025.3.31
中山裕美	科学研究費 基盤研究 (A) 「分断する国際政治における国際協調とガバナンスの政治経済分析」	文部科学省・日本学術振興会	鈴木基史	2023.4.1~2027.3.31
村津蘭	科学研究費 基盤研究 (B) 「仮想空間における宗教的遠隔治療に関する情動・感覚の文化人類学的研究」 (21H00650)	文部科学省・日本学術振興会	De Antoni Andrea (京都大学)	2021.4.1 ~ 2025.3.31
宮本佳和	科学研究費 基盤研究 (A) 「気候危機ナラティブに対するアフリカ遊動社会研究からのカウンターナラティブの形成」	文部科学省・日本学術振興会	湖中真哉 (静岡県立大学)	2023-04-01 ~ 2028-03-31

分担者名	資金名	資金提供元	代表者名	期間
	(23H00031) (2023年度は研究協力者)			
大石晃史	科学研究費 基盤研究 (B) 「サイバーフィジカル融合のもとでのグローバル・ガバナンス：持続可能な平和を目指して」 (22H00815)	文部科学省・日本学術振興会	阪本拓人 (東京大学)	2022.4.1～2025.3.31
Kinyua, Laban Kithinji	日立感染症関連研究支援基金 領域開拓型研究 「Exploration of Practical Wisdom and Resilience Overcoming Downside Risk - Collecting grassroots voices in Africa under COVID-19」	日立財団	華井和代 (東京大学)	2021.12～2024.11

5.5. 受賞

受賞者名	受賞名	受賞された団体	日付	掲載 HP (URL)
井上直美 武内進一	日本経営倫理学会水谷雅一賞論文部門奨励賞	日本経営倫理学会	2023/6/10	https://www.jabes1993.org/2023/08/32023.html
村津蘭	第 18 回日本文化人類学会奨励賞	日本文化人類学会	2023/6/9	https://www.jasca.org/onjasca/award/award.html
村津蘭	第 19 回 (公財) 国際宗教研究所賞	(公財) 国際宗教研究所	2024/2/17	https://www.iisr.jp/award/2023/